



2019年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2018年10月30日

上場会社名 株式会社ドリームインキュベータ 上場取引所 東
 コード番号 4310 URL http://www.dreamincubator.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山川 隆義
 問合せ先責任者 (役職名) 経営管理グループ長 (氏名) 上村 敏弘 TEL 03(5532)3200
 四半期報告書提出予定日 2018年11月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第2四半期の連結業績（2018年4月1日～2018年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第2四半期	9,774	32.0	62	△83.4	223	△46.1	411	324.6
2018年3月期第2四半期	7,404	8.0	374	△45.6	414	△41.1	96	△78.4

(注) 包括利益 2019年3月期第2四半期 648百万円 (—%) 2018年3月期第2四半期 △32百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第2四半期	42.04	40.17
2018年3月期第2四半期	9.98	9.79

(参考) 調整後経常利益 2019年3月期第2四半期 462百万円
 2018年3月期第2四半期 一百万円
 調整後親会社株主に帰属する四半期純利益 2019年3月期第2四半期 228百万円
 2018年3月期第2四半期 一百万円

(注) 当社は、当社の重要な子会社であるアイペット損害保険株式会社（以下、アイペット）に関して、普通責任準備金を未経過保険料方式により算定し、異常危険準備金繰入額の影響を排除した利益（調整後利益）を、損益実態を把握する上で有用な指標としております。参考では、調整後利益に基づく連結業績を開示しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第2四半期	23,089	13,707	49.1
2018年3月期	19,368	11,646	54.4

(参考) 自己資本 2019年3月期第2四半期 11,345百万円 2018年3月期 10,542百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	0.00	0.00	0.00	26.0	26.0
2019年3月期	0.00	0.00			
2019年3月期（予想）			0.00	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無
 2019年3月期の期末配当予想につきましては、未定としております。

3. 2019年3月期の連結業績予想（2018年4月1日～2019年3月31日）

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

当社グループの事業は、プロフェッショナルサービス事業及びインキュベーション事業から構成されております。プロフェッショナルサービス事業は安定性が高い一方、インキュベーション事業の一部については売上高の多くが株式市場における株式売却によってもたらされることから、株式市況やIPO動向に伴って振幅します。従いまして、現時点において業績予想を合理的に行うことが困難であるため、開示を控えさせていただいております。

なお、現時点で将来の業績を予想するのに有用と思われる情報を4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」に記載しておりますので、ご参照下さい。

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動： 無

（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2019年3月期2Q	10,305,300株	2018年3月期	10,300,600株
2019年3月期2Q	506,615株	2018年3月期	526,682株
2019年3月期2Q	9,790,242株	2018年3月期2Q	9,716,434株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

（注）当社は、「役員報酬BIP信託」及び「株式付とESOP信託」を導入しております。BIP信託口及びESOP信託口が所有する当社株式は、自己株式に含めて記載しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・調整後利益に関する説明

損害保険会社は、保険業法施行規則第70条1項1号に基づき、未経過保険料残高と初年度収支残高の大きい方を責任準備金として負債計上し、当事業年度の残高と前事業年度の残高の差分を繰入額として当期に費用計上します。

アイペットでは、現状、財務会計上は初年度収支残高によっていますが、当社ではアイペットの損益実態を把握する指標として未経過保険料方式による損益を重要視しております。その理由として、未経過保険料方式により算定された利益は、発生主義による利益と同額となるため、期間比較が可能となり経営実態を適切に反映していると考えております。一方で、初年度収支残方式は、収支相当の原則に立脚しており、当年度に係る保険料から保険金、事業費を差し引いた残額が、翌年度以降の保険金支払い等の原資になるという考え方であり、初年度収支残方式により算出された利益は、発生主義による利益とならないことから期間比較が出来ないと考えております。

また、上場企業のうち、初年度収支残方式に基づく損害保険会社が存在しないため、損害保険会社を企業集団にもつ競合他社との比較の観点からも、投資家が当社の業績を評価する上で有用な情報として未経過保険料方式により算定された利益が、投資家に有用と考えております。

異常危険準備金は、異常災害による損害の填補に備えるため、収入保険料の一定割合を毎期積み立てる責任準備金の一種であり、大蔵省告示第232号第2条の別表で記載されている損害率を超える場合に、その損害率を超える部分に相当する金額を取崩すこととされています。アイペットは損害率が基準よりも低いため、収入保険料に3.2%を乗じた金額を毎期積み立てております。

そのため、アイペットについて、未経過保険料方式に異常危険準備金を加味した利益が、アイペットの経営実態を把握する上で有用な指標と考えており、それを基礎とした連結業績（調整後利益）は、投資家が当社の業績を判断する上で有用な情報と考えております。

・日付の表示方法の変更

「2019年3月期 第1四半期決算短信」より日付の表示方法を和暦表示から西暦表示に変更しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
(4) 営業の状況	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(セグメント情報等)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(報告セグメントの変更について)

第1四半期連結会計期間において、従来、「戦略コンサルティングセグメント」の一部を構成していた連結子会社であるDream Incubator Vietnam Joint Stock Companyと「その他セグメント」に含まれていた株式会社DI Asia（旧称「株式会社DIマーケティング」。第1四半期連結会計期間に商号変更）を、アジア地域におけるサービス拡充を目的として経営統合したことに伴い、業績管理区分の見直しを行い、「戦略コンサルティングセグメント」に含めた上で「プロフェッショナルサービスセグメント」と区分いたしました。

この変更により、当社のセグメント構成は、「戦略コンサルティングセグメント」、「営業投資セグメント」、「保険セグメント」、「その他セグメント」から、「プロフェッショナルサービスセグメント」、「営業投資セグメント」、「保険セグメント」、「その他セグメント」となります。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

(1) 経営成績に関する説明

当社及び当社グループの当第2四半期連結累計期間における経営成績は、売上高は9,774百万円（前年同四半期比32.0%増）、経常利益は223百万円（前年同四半期比46.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は411百万円（前年同四半期比324.6%増）となりました。

当第2四半期連結累計期間における報告セグメントごとの業績は、以下のとおりです。

(プロフェッショナルサービス事業)

プロフェッショナルサービス事業では、大企業や政府向けの戦略コンサルティング（特に、将来の成長を牽引するビジネスプロデュース（事業創造）支援や成長戦略立案支援に強み）、M&Aファイナンシャル・アドバイザー、経営幹部育成支援、アジア地域等における戦略コンサルティングや市場調査を提供しております。

プロフェッショナルサービス事業（セグメント）においては、大企業への戦略コンサルティングが前年同四半期と比べて減少したことから、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,069百万円（前年同四半期は1,532百万円）、セグメント利益（営業利益）は145百万円（前年同四半期はセグメント利益（営業利益）803百万円）となりました。

(インキュベーション事業)

インキュベーション事業は、営業投資セグメント、保険セグメント、その他セグメントにより構成されております。

営業投資セグメントにおいては、新規投資活動として、提携先ベンチャーキャピタルと連携し、日本・アジア・米国を中心に投資を実行しております。また、インドでの投資活動の更なる加速を目的として「DIインドデジタル投資組合」を子会社として設立し営業を開始いたしました。

既存投資先ベンチャーに関しては、当社が深く支援することで成長加速が見込まれるステージにおいて資金と人材を投入し、それ以降は売却を進めており、当第2四半期累計期間においては複数件のトレードセールによる売却等を実施いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,667百万円（前年同四半期は67百万円）、セグメント利益（営業利益）は242百万円（前年同四半期はセグメント損失（営業損失）153百万円）となりました。

保険セグメントとは、連結子会社であるアイペットが運営するペット向け医療保険を指します。同社は、2018年4月25日付で東京証券取引所マザーズに新規上場いたしました。当第2四半期連結累計期間において、ペット向け医療保険の加入件数は順調に増加し、売上は順調に拡大しました。以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は7,036百万円（前年同四半期は5,804百万円）、セグメント利益（営業利益）は89百万円（前年同四半期はセグメント利益（営業利益）139百万円）となりました。

なお、第1四半期連結累計期間より税効果会計における企業分類の変更を行ったことにより、法人税等調整額を利益項目として570百万円計上しております。

その他セグメントには、当第2四半期において当社が普通株式を100%取得したフリーコンサルタントのマッチング・プラットフォーム事業を運営する株式会社ワークスタイルラボ（以下、WSL）が含まれております。2018年9月30日をみなし取得日としており、当第2四半期連結累計期間においては、貸借対照表のみを連結していません。

以上の当社及び当社グループの売上をまとめると以下のとおりです。

区分	第18期 第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)		第19期 第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
プロフェッショナルサービス事業(セグメント)	1,532	20.7	1,069	10.9
インキュベーション事業	5,871	79.3	8,704	89.1
(内訳)				
営業投資セグメント	67	0.9	1,667	17.1
保険セグメント	5,804	78.4	7,036	72.0
合計	7,404	100.0	9,774	100.0

(参考) 当社は、当社の重要な子会社であるアイベットに関して、損益実態を把握する上で有用な指標として以下の調整を加味した利益を開示しております。

①普通責任準備金：当該金額の算定を初年度収支残方式から未経過保険料方式に変更

②異常危険準備金：繰入額の影響を排除

財務会計ベースの保険セグメント損益から調整後利益ベースの保険セグメント損益へ調整及び、調整後利益ベースでの連結業績は以下のとおりです。

なお、調整後利益は異常危険準備金の影響を除いて算定されるため、税効果会計における企業分類の変更による影響は小さくなり、調整後親会社株主に帰属する四半期純利益は財務会計ベースと比べ減少しております。

	第19期 第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
財務会計ベースの保険セグメント損益	89
①に関する調整額	12
②に関する調整額(注)	225
調整後保険セグメント損益	327
調整後連結経常利益	462
調整後親会社株主に帰属する四半期純利益	228

(注) 戻入の場合はマイナスとなります。

(2) 財政状態に関する説明

①連結貸借対照表

当第2四半期連結会計期間における資産は23,089百万円（前連結会計年度末比3,721百万円増）、負債は9,382百万円（同1,660百万円増）、純資産は13,707百万円（同2,061百万円増）となっております。

前連結会計年度末比での資産の増加の主な理由は、アイペットの新規上場に伴う公募増資による現金及び預金の増加や、同社の税効果会計における企業分類の変更による繰延税金資産の増加等が挙げられます。

負債の増加の主な理由は、借入金の増加や、保険業法に基づく保険契約準備金の増加等が挙げられます。

純資産の増加の主な理由は、アイペットの新規上場に伴う公募増資により非支配株主持分が増加したこと、及び当社持分の変動による資本剰余金の増加等が挙げられます。

②連結キャッシュ・フロー計算書

当第2四半期連結累計期間の現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比較して1,822百万円増加し、6,438百万円となりました。これを活動別に記載しますと、以下のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、1,195百万円の収入になりました。これは主に、営業投資有価証券を売却したことによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、1,719百万円の支出になりました。これは主に、投資有価証券を取得したことによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、2,337百万円の収入になりました。これは主に、アイペットの新規上場に伴う公募増資における非支配株主からの払込みによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

プロフェッショナルサービス事業は、アジア地域等における戦略コンサルティングや市場調査での事業は拡大見込みである一方、国内における戦略コンサルティングの売上高が減少する見込みです。なお、短期の変動はあるものの、中長期的には、引き続き、年15%程度の成長を見込んでおります。

インキュベーション事業の保険セグメントは、引き続き拡大傾向にあるペット保険市場を背景として安定的・継続的な成長を見込んでおります。

その他セグメントに含まれるWSLについては、単体ではすでに利益が出ておりますが、事業拡大に伴う先行的費用やのれん償却等が発生することから、連結業績への寄与はまだ先になると見込んでおります。

営業投資セグメントにつきましては、投資先ベンチャーの内、IPO又はトレードセールで複数社の売却を見込んでおりますが、売上高が株式の売却によってもたらされることから、株式市況やIPO動向に伴い振幅します。そのため、通期業績の見通しは立てにくく、四半期毎に売上高が増減する状況が続くと考えております。

(4) 営業の状況

(生産実績)

当社及び当社グループは生産活動を行っておりませんので、該当事項はありません。

(受注実績)

当第2四半期連結累計期間における受注実績は次のとおりであります。

なお、営業投資セグメントにつきましては、受注という概念がございませんので記載しておりません。

区分	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	前年同四半期比 (%)
	金額(百万円)	金額(百万円)	
プロフェッショナルサービス事業 (セグメント)	1,915	1,216	△36.5
インキュベーション事業	5,804	7,036	21.2
(内訳)			
保険セグメント	5,804	7,036	21.2
合計	7,719	8,253	6.9

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(販売実績)

当第2四半期連結累計期間における販売実績は次のとおりであります。

区分	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	
	金額(百万円)	前年同四半期比(%)
プロフェッショナルサービス事業 (セグメント)	1,069	△30.2
インキュベーション事業	8,704	48.2
(内訳)		
営業投資セグメント	1,667	2,371.0
保険セグメント	7,036	21.2
合計	9,774	32.0

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(投資実績)

証券種類	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)				当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)			
	投資実行高		期末投資残高		投資実行高		期末投資残高	
	金額 (百万円)	会社数 (社)	金額 (百万円)	会社数 (社)	金額 (百万円)	会社数 (社)	金額 (百万円)	会社数 (社)
株式・出資金等	1,677	26	6,350	58	439	10	5,582	56
新株予約権等	—	3	0	11	—	2	—	8
合計	1,677	29	6,350	64	439	12	5,582	60

- (注) 1 新株予約権等は、当社コンサルティングサービスの対価として発行会社から無償で取得している場合がありますが、上表においては、その際の金額をゼロとし会社数のみを記載しております。
- 2 株式、新株予約権等を重複して投資を行っている会社があります。
- 3 時価のあるものについては、取得原価を記載しております。
- 4 上表には余剰資金の運用目的の有価証券及び投資有価証券は含まれておりません。
- 5 当社グループは、未公開時点では投資をしていなかったPost-IPO企業の株式をIPO後に取得する場合がありますが、上表には当該投資金額及び会社数は含まれておりません。
- 6 期末において保有している新株予約権等を全て行使した場合の株式取得価額の総額は、以下のとおりであります。

前連結会計年度	当第2四半期連結会計期間
197百万円	25百万円

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,299	7,752
受取手形及び売掛金	2,460	2,168
営業投資有価証券	6,661	5,390
投資損失引当金	△490	△1
たな卸資産	17	20
未収入金	23	239
その他	291	448
貸倒引当金	△28	△2
流動資産合計	15,235	16,016
固定資産		
有形固定資産	197	251
無形固定資産		
のれん	349	648
その他	368	893
無形固定資産合計	718	1,541
投資その他の資産		
投資有価証券	2,262	3,753
長期貸付金	78	47
繰延税金資産	385	945
その他	526	569
貸倒引当金	△36	△36
投資その他の資産合計	3,217	5,279
固定資産合計	4,133	7,073
資産合計	19,368	23,089

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
負債の部		
流動負債		
1年内返済予定の長期借入金	100	254
リース債務	8	8
未払金	531	671
保険契約準備金	5,560	6,222
支払備金	794	904
責任準備金	4,766	5,318
未払法人税等	556	186
賞与引当金	100	114
役員賞与引当金	-	15
その他	390	522
流動負債合計	7,247	7,994
固定負債		
長期借入金	225	1,061
リース債務	26	25
繰延税金負債	3	63
株式給付引当金	215	232
その他	3	5
固定負債合計	474	1,387
負債合計	7,722	9,382
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,940	4,943
資本剰余金	3,801	4,378
利益剰余金	3,158	3,308
自己株式	△942	△889
株主資本合計	10,958	11,741
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△308	△302
為替換算調整勘定	△106	△93
その他の包括利益累計額合計	△415	△396
新株予約権	64	63
非支配株主持分	1,038	2,298
純資産合計	11,646	13,707
負債純資産合計	19,368	23,089

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
売上高	7,404	9,774
売上原価	3,417	5,306
売上総利益	3,986	4,467
販売費及び一般管理費	3,612	4,405
営業利益	374	62
営業外収益		
受取利息	9	7
受取配当金	13	25
投資有価証券売却益	20	100
為替差益	1	2
貸倒引当金戻入額	5	—
その他	6	30
営業外収益合計	55	167
営業外費用		
支払利息	1	1
支払補償金	9	1
価格変動準備金繰入額	0	1
その他	3	1
営業外費用合計	15	5
経常利益	414	223
特別利益		
新株予約権戻入益	—	0
特別利益合計	—	0
特別損失		
固定資産除却損	256	—
特別損失合計	256	—
税金等調整前四半期純利益	158	223
法人税、住民税及び事業税	125	136
法人税等調整額	△17	△543
法人税等合計	108	△406
四半期純利益	50	630
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△46	218
親会社株主に帰属する四半期純利益	96	411

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
四半期純利益	50	630
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△81	3
為替換算調整勘定	△1	14
その他の包括利益合計	△82	17
四半期包括利益	△32	648
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	18	431
非支配株主に係る四半期包括利益	△51	216

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	158	223
減価償却費	39	44
のれん償却額	56	56
支払備金の増減額 (△は減少)	197	109
責任準備金の増減額 (△は減少)	362	552
投資損失引当金の増減額 (△は減少)	—	△489
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△5	△26
賞与引当金の増減額 (△は減少)	0	14
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△4	15
株式給付引当金の増減額 (△は減少)	50	17
為替差損益 (△は益)	△1	△3
投資有価証券売却損益 (△は益)	△20	△100
営業投資有価証券の増減額 (△は増加)	△550	1,255
売上債権の増減額 (△は増加)	△184	387
未収入金の増減額 (△は増加)	△6	37
未払金の増減額 (△は減少)	△36	△234
その他	209	△190
小計	266	1,668
利息及び配当金の受取額	17	31
利息の支払額	△1	△3
法人税等の支払額	△358	△502
営業活動によるキャッシュ・フロー	△75	1,195
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△1,690	△1,114
定期預金の払戻による収入	1,687	1,491
有形固定資産の取得による支出	△48	△35
無形固定資産の取得による支出	△107	△301
投資有価証券の純増減額 (△は増加)	△672	△1,404
敷金及び保証金の差入による支出	△3	△53
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	—	△353
貸付けによる支出	△23	△9
その他	22	60
投資活動によるキャッシュ・フロー	△836	△1,719
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	4	3
長期借入れによる収入	—	1,040
長期借入金の返済による支出	△50	△50
配当金の支払額	△31	△262
非支配株主からの払込みによる収入	—	1,485
投資事業組合等における非支配株主からの出資受入による収入	—	125
その他	△1	△4
財務活動によるキャッシュ・フロー	△78	2,337
現金及び現金同等物に係る換算差額	7	9
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△982	1,822
現金及び現金同等物の期首残高	5,723	4,616
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,741	6,438

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第2四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2017年5月11日 取締役会	普通株式	30	3	2017年3月31日	2017年6月13日	利益剰余金

(注) 2017年5月11日取締役会決議による配当金の総額には、信託が保有する自社の株式に対する配当金0百万円が含まれております。

当第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年5月10日 取締役会	普通株式	262	26	2018年3月31日	2018年6月12日	利益剰余金

(注) 2018年5月10日取締役会決議による配当金の総額には、信託が保有する自社の株式に対する配当金8百万円が含まれております。

2. 株主資本の著しい変動

当社の連結子会社であるアイペットが、2018年4月25日に東京証券取引所マザーズに新規上場いたしました。これに伴い同社にて公募増資等を行ったことから、当社持分が変動し、資本剰余金が599百万円増加しております。この結果、当第2四半期連結会計期間末において資本剰余金が4,378百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	プロフェッショナル サービス セグメント	営業投資 セグメント	保険 セグメント	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,532	67	5,804	7,404	—	7,404	—	7,404
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	1,532	67	5,804	7,404	—	7,404	—	7,404
セグメント利益 又は損失(△)	803	△153	139	789	—	789	△415	374

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△415百万円は各セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社での営業活動に関わる費用及び一般管理費用であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他	合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	プロフェッショナル サービス セグメント	営業投資 セグメント	保険 セグメント	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,069	1,667	7,036	9,774	—	9,774	—	9,774
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	1,069	1,667	7,036	9,774	—	9,774	—	9,774
セグメント利益 又は損失(△)	145	242	89	476	△10	466	△404	62

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△404百万円は各セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社での営業活動に関わる費用及び一般管理費用であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間において、従来、「戦略コンサルティングセグメント」の一部を構成していた連結子会社であるDream Incubator Vietnam Joint Stock Companyと「その他セグメント」に含まれていた株式会社DI Asia(旧称「株式会社DIマーケティング」。第1四半期連結会計期間に商号変更)を、アジア地域におけるサービス拡充を目的として経営統合したことに伴い、業績管理区分の見直しを行い、「戦略コンサルティングセグメント」に含めた上で「プロフェッショナルサービスセグメント」と区分いたしました。

この変更により、当社のセグメント構成は、「戦略コンサルティングセグメント」、「営業投資セグメント」、「保険セグメント」、「その他セグメント」から、「プロフェッショナルサービスセグメント」、「営業投資セグメント」、「保険セグメント」、「その他セグメント」となります。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。